

# 福島で営農発電参入

## 国内最大規模 来春完成めざす

トーヨーエネルギー

再生可能エネルギーの関連事業を手掛けるトーヨーエネルギーファーム（福島県相馬市、岡田吉充社長）は、農地で作物を育てながら太陽光で発電する「営農発電」に参入する。福島県南相馬市の農地に出力1万1千キロワットのメガソーラー（大規模太陽光発電所）を建設、2018年3月の完成を目指す。営農発電では国内最大規模となる。

建設する農地は、東京ドーム4個分の18万5千平方メートル。東京電力福島第1原子力発電所事故の20

キ圏内に位置する。福島原発事故の以前から農地だったが、16年に避難指示が解除になった後も担い手がおらず、耕作放棄地となっていた。

農地では太陽光パネルを通常よりも高い位置に設置し、パネルの下で農

作業ができるようにする。トーヨーエネルギーが営農事業者となり、日照が少なくても育つミヨウガを栽培する。

り、作物も放射線量を検査したうえで出荷する。被災地で地元住民の雇用を生み出すことも目的とし、繁忙期には最大30人を雇用している。

トーヨーエネルギーは自社で2万5千キロワットのメガソーラーを運営。農業事業にも力を入れており、植物工場の開発や運営も手掛けている。

太陽光と農業の両方のノウハウが生かせることから営農発電への参入を決めた。今後も全国各地で営農発電の計画を進めていく考えだ。